

第13回（平成19年度第2回） かごしままちづくり会議会次第

○日時：平成19年7月31日（火）10:00～12:00

○場所：みなと大通り別館6階 ソーホーかごしま会議室

1 開 会

2 報 告

- (1) 第12回（平成19年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について
- (2) 第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について
（全市的な事項）
- (3) 第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等について

3 協 議

- (1) 3カ年のとりまとめについて
- (2) テーマ：環境

4 その他

5 閉 会

第13回(平成19年度第2回)かごしままちづくり会議資料

	ページ
1. 第12回(平成19年度第1回)かごしままちづくり会議における意見等の検討状況	1~2
2. 第12回(平成19年度第1回)地域まちづくり会議等における意見等の検討状況 (全市的な事項)	3~4
3. 第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等	5~12

第12回（平成19年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1各地域に係る事項、2全市的な事項、3その他
 検討状況の分類 : 1既に施策等に盛り込み済みのもの、2今後施策への反映を検討するもの、3要望等にそい難いもの、
 4市の所管に属さないもの、5その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
1	ひとり親家庭の自立支援として、ひとり親家庭で悩んでいる方のネットワークを鹿児島市が中心になって組織してもらいたい。連れ子についても同様である。また、捨て子についてだが、赤ちゃんポストも最近話題に上っている。保育所の整備も行政が支援しているわけだから、鹿児島市でも赤ちゃんポストについての検討をする必要があると思う。	2	健康福祉局	質疑として次のとおり回答済 ----- ネットワークづくりについては、鹿児島市母子寡婦福祉会があり、仲間をつくってお互いに助けあって活発に活動しており、本市としても、その活動に対して補助金の交付を行っている。 また、ひとり親家庭の子どもの支援については、市民福祉手当(遺児等修学手当)の支給や母子家庭への児童扶養手当の制度がある。 赤ちゃんポストについてはいろいろ議論があるようであるが、保護者が死亡したり病気になったりして、児童を養育できない場合や棄児については、乳児院や児童養護施設で養育するなどの対応をしているところである。	1
2	親子つどいの広場は相談・交流の場と聞いているので、例えば、北九州市のこども館がように、遊ぶコーナーや室内遊具施設も含め、相談コーナーなどあらゆるものが一体になっているか気になっている。また、本当に助けたい人は声を上げてくれないと思うので、一人でふらっと行けるような、あらゆる方を対象とした施設であってほしい。なお、ゲーム性があればもっといいと思う。今時の人は、広場があっても外での遊び方を知らないものである。	2	健康福祉局	質疑として次のとおり回答済 ----- 親子つどいの広場は主に乳幼児をもつ親とその子どもが気軽につどい、交流を図るとともに育児相談、子育てに関連する情報提供を行うこととしている。施設は5階部分にあり、子ども広場や憩いの広場、赤ちゃんサロンなどを配置し、買い物に来た方が気軽に立ち寄って授乳やおむつ替えなどを行なえるような雰囲気になりたいと考えている。 また、屋上には芝生広場をつくり、遊具も設置予定であり、親子で楽しく過ごしていただきたいと思っている。 1階にはサテライトホールを配置して、利用者が気軽に立ち寄れるような施設にしたいと考えている。	1

第12回（平成19年度第1回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
3	ふれあい子育てサロンは社会福祉協議会の支援により実施されているが、子育てサロンの説明部分の民生委員・児童委員等の等は何を意味するのか。今では、地域ボランティア、婦人会、町内会のいろんな人が参加している。民生委員・児童委員が目立つ記載となっているから気になったが、ボランティアの方が多いくらいだ。ふれあい子育てサロンの説明について、実態に合わせ、ボランティアも載せてあげたほうがいい。	2	健康福祉局	民生委員・児童委員等の等については、ふれあい・子育てサロンが校区社会福祉協議会を中心に、地域の民生委員・児童委員、ボランティア、参加されるお母さん方など、みなさんの手で運営されているので、協力いただいている全ての方々を意味している。また、ボランティアの記載については、鹿児島市社会福祉協議会のホームページ、平成18年3月に鹿児島市が発行した子育てガイド等で、地域ぐるみで、子育てを支えあっている主旨を踏まえ、ボランティアの方も掲載し、事業の紹介等を行っているところである。	4
4	保育料滞納が最近多いが、払わなくてもいいということになってはいけない。子どもの育成も大事だが、母親の育成も大事だと思う。また、保育所入所の選定基準について、母子家庭などの方を優先させているのもわかるが、休職中で仕事に復帰する際には、入所ににくい面があるのではないか。	2	健康福祉局	保育料滞納については、督促状・催告状の発送のほか、臨戸訪問や電話催告を随時行うなど、滞納解消に努めているところであり、さらに、今後、他の方法の実施も検討している。また、保育所入所の選考基準については、産後休暇明けや育児休業明けで仕事に復帰する際には、母子家庭などと同様、優先世帯として選考を行っているところである。	1
5	夜間急病センターについてだが、夜間に来なくてもいい子どももたくさん来ており困っているというニュースが報道されていた。全国的には行かなくても夜間に電話で症状を言えば、アドバイスをする所がかなりある。鹿児島市にもあったほうがいいと思う。	2	健康福祉局	市夜間急病センターにおいては、平成19年4月から電話相談等に対応する看護師を1人増員配置したところである。 また、夜間における子どもさんの急な病気やけがなどの際に、看護師等から、症状に応じた適切な助言を受けられる「小児救急電話相談事業」について、県が実施に向けて検討中である。	1、4
6	非行の低年齢化が叫ばれてきている。児童クラブは3年生までが対象だが、兄弟がいれば預かれるとか、余裕を持った学童保育のあり方を検討してほしい。高学年になったから安心していいのではないと思う。	2	健康福祉局	児童クラブは低学年児童の利用を優先しているが、4年生以上の児童を受け入れている児童クラブもある。 ただし、利用希望者が多く、利用できない児童（待機児童）が発生している児童クラブもあるので、児童数の推移をみながら第二クラブ（分園）の設置を検討していきたい。	2

第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1各地域に係る事項、2全市的な事項、3その他
 検討状況の分類 : 1既に施策等に盛り込み済みのもの、2今後施策への反映を検討するもの、3要望等にそい難いもの、
 4市の所管に属さないもの、5その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
吉田	1	新築住宅への合併処理浄化槽設置補助金が平成19年12月31日で廃止になるが、既存の単独浄化槽を合併処理浄化槽に設置換えする場合への補助金も将来なくなるのではないかと危惧している。地域の住環境の保全のためにも、新築住宅への設置も含めて補助金制度は残していただきたい。	2	環境局	現在、法改正により新築住宅等については、合併処理浄化槽の設置が義務化されており、合併処理浄化槽の設置を促進するという当初の目的は終了したことから、今回、新築住宅等に対する補助を廃止するものである。 なお、既存の単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への設置換えについての20万円の上乗せは、今後も継続する。 また、平成20年1月1日から、新たに、汲取り便槽から合併処理浄化槽への設置換えについても、20万円の上乗せ補助を実施し、水環境改善のスピードアップを図ろうとするものである。	3
吉田	2	市職員が通勤途中で道路の不具合などを発見した場合は、所管課と連携してすぐ対処できるような市役所組織内での機関を設置してほしい。	2	建設局	お質しのことについては、市民が日常的に利用する道路を安全かつ快適なものとするため、平成19年3月5日に全職員に対し、道路損傷等に関する情報を提供しよう通知を行ったところである。	3
桜島	3	桜島の農業は、高齢化や担い手不足が進んでいる。増加する遊休地や空き家などを活用して、定年退職を迎える団塊世代を新規就農者に誘導することで、農業振興や過疎化対策につなげることができると思うのでそのような施策を展開してほしい。	2	経済局	農業の担い手の育成と、農村地域の活性化を図るため、新規就農を希望される方に対し、相談窓口の設置、都市農業センターでの研修(3ヶ月)等の支援に努めており、18年度からは定年前の方々を対象にした就農準備講座も行っているところである。 また、遊休農地等の新規就農者への誘導については、遊休農地の所有者の意向や立地条件等を踏まえ、農業委員会との連携を図りながら、可能なところは結び付けられるよう努めてまいりたい。	1

第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1各地域に係る事項、2全市的な事項、3その他
 検討状況の分類 : 1既に施策等に盛り込み済みのもの、2今後施策への反映を検討するもの、3要望等にそい難いもの、
 4市の所管に属さないもの、5その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
喜入	4	グリーンツーリズム関係の会議で作成したパンフレットで、紹介された史跡付近に住む方々が、路上駐車や植物の乱獲で迷惑したとの事例が、上記会議でだされており、地域を紹介するパンフレット等の作成の際、地元的生活者が迷惑することがないように掲載するにあたっては、慎重に検討してほしい。	2	経済局	グリーン・ツーリズムは、農村地域の自然や文化とのふれあいや人々との交流を通して、地域を活性化しようとするもので、ご意見のように地域にすむ方々に迷惑をかけるような行動はあってはならないと考えている。 今後は、地域を紹介するパンフレットの作成等の際には、自然や文化を守り、慈しむ心の醸成やモラルの向上につながるよう、努めてまいりたい。 ※新市まちづくり計画 4機能的で多彩な交流が広がるまち/ (3)農村地域整備/45ページ	2
松元	5	地域福祉館については、概ね1中学校区に1館という基本方針があると聞いている。旧5町域には住民自治組織がつくった集会施設があるが、地域福祉館とは機能や目的が異なっているので、集会施設があるという理由で地域福祉館の整備が遅れることのないようにしてほしい。	2	健康福祉局	福祉館の建設については、地理的状況、人口の集積状況、類似する既存施設の設置状況や利用状況等も勘案しながら、検討していくこととしており、現時点では、地域公民館、校区コミュニティセンターなど既存施設の活用を図っていただきたい。	2

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
開催日時	平成19年6月28日(木) 13:30~15:30	平成19年6月25日(月) 14:00~16:30	平成19年6月29日(金) 10:00~12:00	平成19年6月28日(木) 14:00~15:50	平成19年6月26日(火) 13:30~15:30
開催場所	吉田福祉センター 2階会議室	桜島支所2階大会議室	マリニピア喜入八幡温泉保養館 第1会議室	松元支所3階大会議室	郡山支所3階中会議室
出席者数	委員15人	委員13人	委員14人	委員15人	委員15人
会議内容	1 開 会 2 議 題 (1) 前回会議における意見等の検討状況 (2) 意見・提言等の協議 (5支所共通)				
	<各会議の協議テーマ>				
	住環境の整備、交通対策 商工・観光など	観光、農林水産業、農村地域整備、 交通体系	自治組織と住民自立	「個性創造都市」 ～家庭教育・生涯学習・男女共同 参画社会・コミュニティなど～	会議の経過、協議の進め方、意見等の 整理方法及び自主研究グループの意 見等の要約の確認と協議
(3) 組織のあり方 (4) その他 3 閉 会 (5支所共通)					
主 意 見 等 1	最近吉田地域でもあちこち空家が増えており、単車乗りなど若者の溜まり場になりかねない。防犯の面からも校区や町内会で把握しておく必要がある。	現在、桜島の観光振興への市の取り組みは大変すばらしいと思うが、観光振興施策の成果を計るためにも、桜島地域内への観光入込客数を正確に把握してほしい。	自治組織をうまく運営していくために校区公民館の規約の見直しもしなければならないのではないかと。	高齢者福祉センター松元の空調設備は、現在使用できない状況である。当局からの回答では「20年度予算編成時に現状を把握し検討する。」とされているが、夏場を前に修理するなど、緊急的な対処はできないのか。	地域運動会のあり方については、種目やその内容、チーム編成等について、実行委員会を開催する前に、地域自治会連合会等と実行委員会事務局(担当課)が十分協議して今後の方向性を整理していただきたい。
2	牟礼岡でも空家が増えているが、牟礼岡2丁目のバス停近くの老朽化した空家に、鳩が相当巣を作って毎日鳴いたり、鳩のフンで近所の人が困っている。私どもでは所有者がどこにいるかわからないので、行政で調査・指導していただけないか。	桜島観光振興プランにおいては、民間の観光施設はどのような位置づけとなっているのか。足湯の設置についても民間の観光施設に作ることも可能であると思うので、民間観光施設も活用した形で、桜島の観光振興策を展開してほしい。	校区公民館運営審議会と校区自治組織という2面制を持っているので、予算決算についても2本立てで処理をするようにしていけば業務の整理がなされていくのではないかと。	旧町時代のカウンセリングルーム(心の教室)に該当する事業を、合併後の本市でも行っていただきたい。また、カウンセリングルームを設置する場合は、小学校から中学校まで一貫して相談などが受けられるような体制を整えていただきたい。	今年4月にオープンした八重棚田館については、農産物の加工やイベント時などに一時的に貸し出し利用する形での運営ではなく、常時開館し、八重の棚田をシンボルとして、市域はもちろん、県内外へ向けて農業・農村の情報発信や交流拠点として、グリーンツーリズムによる小中学生などが宿泊して学習体験できるなど、様々な利活用や運営方法を検討していただき、農業・農村の振興を図ることが必要ではないかと。

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
3	<p>去年の年末に牟礼岡の空家の草刈りや植木の剪定をしていただいたが、枯草等がそのままになっている。いつ火をつけられてしまうかという危険もあるので処理していただきたい。</p>	<p>足湯の設置については、将来的には、足湯だけでなく、入浴施設やレストランなど相乗効果が期待できる関連施設を含めた一体的な整備を検討してほしい。</p>	<p>自治組織としての校区と生涯学習を進める校区公民館運営審議会に分けて考え、校区代表者と運営審議会委員長について、兼務することでもかまわないと思うが、職としては分けた方がよいのではないか。また、校区の代表者については、選挙により選出したほうがいいのではないか。</p>	<p>旧町時代には、青少年健全育成事業として「100単位プラン」などといった特長ある事業があった。合併後は予算が計上されていないようであるが、旧町時代の特長ある青少年育成事業等については、廃止するのではなく、継続して支援していただきたい。</p>	<p>公共施設の利用については、行政の縦割り組織で考えるのではなく、公共施設の申し込みや許可を各支所で行えるようにするなど、市民のニーズや各地域の実状に即した管理・運営のあり方を検討してほしい。</p>
4	<p>牟礼岡小学校の通学路にある防犯灯で根元が腐食しているものがある。子どもたちがよくつかまって回ったりするので、いつ倒れるかもわからず危険である。補修をしていただきたい。</p>	<p>東桜島地区を含め、桜島地域には観光関連の施設が数多くあるが、お互いの施設の情報も含め、まだ十分に共有していない面がある。例えば、陶芸体験・グリーンツーリズムなどの様々なイベント情報や、悪天候時の交通情報などを、どの施設でも同じように観光客に情報提供できるように仕組みづくりに取り組んでほしい。</p>	<p>校区公民館の管理や利用方法について、喜入地域の校区公民館は、小学校敷地内に設置されていない箇所もあることや調理室を有するなど旧鹿児島市の公民館と形態も異なることから、従来の旧市の校区公民館と同様の管理や利用方法で対応するのではなく、地域の実態に合わせた利用について検討してほしい。</p>	<p>合併後、松元地域の小・中学校の先生方が交流し情報交換をする場がなくなると聞いている。地域の子どもの情報も共有し、一貫した小・中学校教育に取り組むために、小・中学校の先生方が交流をする場を設けていただきたい。</p>	<p>農業については、地域ぐるみで取り組む必要がある。鹿児島市外では、鹿屋市串良町の柳谷集落、薩摩川内市の峰山地区コミュニティ協議会のような大きな取組みがあるようだが、これらに共通しているのは、集落・自治会の活動として取り組まれていることであり、このような取組みを通じて農業をする人を呼び込み、農村へ足を運ぶ人を増やすことが必要である。行政においてもこの様な取組み事例や情報を収集し積極的にPRに努めるなど、このような取組みを支援するような施策の充実に努めていただきたい。</p>
5	<p>牟礼岡の第9公園のゴルフ場側の谷側にあるフェンスが破れており、子どもたちが出入りしている。急な斜面になっているので、フェンスの補修をしていただきたい。</p>	<p>全国的に農業の担い手不足と高齢化が進行しており、桜島地域については特にその傾向が顕著であると思われる。そこで、桜島地域の特産品である桜島小みかんの栽培においては、ハウス施設の管理が高齢者にとっては労力的に厳しいことから、高齢者の労力でも容易に栽培が行える、桜島の気候・風土に適した新たな作目の研究・普及に取り組んでほしい。</p>	<p>一倉地区は、整備可能な市有地や周辺に多くの農地を有し、現有施設である「喜入の森」と連携した活用も考えられること、また指宿・知覧への観光ルートにあたっていることなど、観光農業公園として最適地であると考えられることから、整備がされるよう推進したい旨の意見が出され、全委員の賛同が示された。</p>	<p>合併後、地域公民館（いわゆる「連合町内会」）が消滅し、自治公民館（いわゆる「単位町内会」）どうしの横の連携が取りにくくなってきている。住みよい地域づくりを進めていくためにも、校区ごとに、さらには松元地域内に自治公民館連絡協議会を設置するための予算化を図っていただきたい。</p>	<p>市では行政と市民との協働とか市民とのパートナーシップによるまちづくりを提唱されているが、我々が合併前と合併後で大きく変化したと感じるのは、行政と自治会・町内会との関係である。小学校区単位による町内会・自治会の連合組織の結成を市全域で促進し、その連合組織の代表（小学校の教程度）と行政との間で定期的な情報交換や意見交換を行うなど、相互の信頼関係を構築して地域と行政が対等な立場で協力し、共にまちづくりを進めていくような仕組みをつくることができないか。</p>

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
6	吉水から本城のほうへ行くバスは通っていない。全部、本名から大原を経由して内門に出る路線になっている。その中間に輝楽里よしだ館があるが、この利用者はほとんど自家用車を利用している。今後、高齢化が進むとバスを利用した輝楽里館よしだ館の利用者が増えてくると思うので、路線の見直しもしていただきたい。	団塊世代を新規就農者として誘導する事業は、過疎化、高齢化が進んでいる桜島地域においては非常に重要な施策であると考えられるので、桜島地域独自にでも取り組んでほしい。	合併時の経過措置としての集落等への補助も無くなり、農村部においては、高齢者も多く、人口も減少し、自治組織の維持も厳しい状況となってきているので、地域コミュニティを活性化するための新たな制度の創設を含め、支援策を拡充してほしい。	組織のあり方について、次のことが確認された。 ① 今年度は、これまでの成果を取りまとめて市長に提出することとし、会議は今年度をもって終了することとする。 ② 今年度は、あと2回(8月と10月を目途に)開催することとし、8月の会議で事務局が意見・提言等をまとめた案を委員に示し、10月の会議で正式に決定し、その後、市長に提出することとする。 ③ ②のスケジュール等については、他のまちづくり会議と調整することとする。	花尾地域のイベント(花尾神社秋の大祭、蟻の花尾詣で)については、その計画段階から地域ぐるみで取り組むような体制づくりが必要ではないか。また、例えば薩摩琵琶の演奏会やかがり火コンサートなどを企画し、イベントをさらに充実して地域の活性化につなげていただきたい。
7	牟礼岡の中央公園なども市から早め早めに除草をしていただいているので、夏と冬の一斉清掃作業のときは早めに終わるので非常に助かっている。感謝申し上げます。	遊休地の活用にあたっては、定年で退職された方が農業を始める場合もあると思われるが、ミカン類については出荷できるまでに10年近くかかってしまい、即収入にはつながらないので、生活の安定のためにも、次の年からでも出荷できるような作物の紹介等も含めた取り組みを行ってほしい。	組織のあり方については、今年度をもって地域まちづくり会議が終息することを確認した。また、今後の地域づくりについて、ワークショップへ期待する意見も出された。		毎年、郡山地域の甲突池まつりで披露されているガラッパ踊り(踊り連)が、市の一大祭りであるおはら祭りに参加することになれば、甲突池のPRや郡山地域の情報発信につながり、ひいては本市の一体化にも寄与するのではないかと。
8	牟礼岡1丁目20番の角のところに、融雪剤が2袋ほどずっと放置されている。子ども達が傘でついたりして流れて出ている。市の所管のところに連絡していただいで処理をしていただきたい。	桜島地域は鹿児島市中心部にも比較的近く、立地条件もよい。また、温泉施設のほか、観光施設等も充実しているため、都市住民の方が、農作業の後、桜島の海の幸、山の幸等も楽しみながら1日桜島を満喫できるのではないかとと思うので、遊休農地を活用した市民農園を整備してほしい。			遊休農地の解消策の一環として、市民が気軽に農業ができるように農地取得や貸し借りなどについての規制等(下限面積)の緩和や規制外にある方々への施策の充実の取り組み及び農地の貸し借り情報の提供について、市民の広場や市のホームページに掲載するなどの取り組みはできないか。また、定年帰農の施策についてどのようなものがあるのか、これらの情報やその手続きなどの情報提供の方法についてもっと充実していただきたい。
9	地域のごみステーションに不法投棄でないが、普通のごみ置場に粗大ごみが置いてある。もう1か月以上経っているがなかなか持っていけないので、地域の方が「これは粗大ごみでしょう。早く持って帰らんね」と書いて貼ったがそれでもまだ持っていけない。こういうときは市に連絡したら受け取っていただけるものか。	桜島フェリーの改札口は混雑していることが多いので、混雑解消のために、フェリー船内への発券機の設置や、鹿児島側の人用の乗船口への自動改札機の設置を検討してはどうか。			行政でも従来の農業施策だけでなく、ロハスや有機農法、インターネット販売などの事例や情報について積極的に市民に提供し、新たな需要の掘り起こしに努めるなど、都市と農村の交流促進による地域活性化につなげていただきたい。

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
10	ごみステーションにもはいりきれないぐらいごみが出てあったり、回収した後に持ってきたり、曜日を守らないということがかなりあるようである。地域の各公民館(町内会)にはごみステーションの美化推進活動の担当もいるので、地域で努力をしていく必要があると思う。	組織のあり方について、今年11月頃に、これまでの会議の取りまとめを行い、これを市長に報告し、本年度で会議を終了する旨確認された。			かごしままちづくり会議での議論がいまひとつみえないが、特に農業問題については一地域の問題ではないので、市全体としてかごしままちづくり会議で全体的により深く議論してほしい。
11	交通対策に要望することも大事だが、企業は路線によっては100円の売り上げをあげるのに200円、300円の経費を掛けている状況である。そのためにはバスの利用促進を図ることが重要である。				現在、市域で7つ開催されている農業まつりについて、例えば、市域を大きく2～3つ程度(北、中央、南など)にブロック分けし、そのブロック毎での開催や、春・秋開催のまつりの会場を各地域持ち回りとするなど、ある程度、市全体でまつりを統合することはできないか。統合された大きなまつりの中で、市域全体の産物や特産品などを一堂に展示紹介、販売等を行えば、市全体の農業振興や本市の一体感にもつながるのではないか。
12	合併後約3年が経過するが、市営バスの吉田地域への乗り入れるビジョンがあるのか伺いたい。特に吉田麓から支所間と吉田地域から吉野方面への乗り入れを地域の住民は要望している。				合併で広がった地域の資源について視点を変えてみると、観光として充分活かすことができるものもある。また、市民にとってのミニ観光(或いは交流)として活かせるものもあると思うので、これらの掘り起こしを積極的に進めていただきたい。一方、地域でも主体的に動き、情報を発信しながら行政へも訴えていくような努力も必要である。
13	不法投棄された粗大ゴミには一定期間貼り紙をしているが、車の通らないような山の中に新品同様の冷蔵庫などが投棄されていることがあるのでそのような場合は目に付かないことになる。				従来の旧市・旧町の行政区域単位で考えるのではなく、現在の市域を例えば中央・東・西・南・北ブロックに分け、この大きなブロック毎に行政組織、公共施設の配置や大会(予選等も含む)・イベントの運営等を考えていけば、旧行政区域の垣根も無くなり、本市の一体化がさらに進むのではないか。

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
14	吉田で一番汚れていると言われる西牟田川に今年ホタルが出た。ホタルは環境に敏感だと思うので悪いことだけではない。				県では本年度から県内の各エリアに地域振興局が組織化され、各エリア毎の長の裁量で、地域の特性を活かし、地域に密着した行政運営ができる仕組みが始まったようであるが、現在の支所のあり方(支所長の権限のあり方とも関係するが)について再検討する必要があるのではないか。今後を展望した場合、本庁のほかにも、現在の9つの支所の括りを大きく再編し(例えば、北部、南部、中央、西部、東部など)、その支所(支所長)の権限で、地域の特性を活かし地域に密着した行政運営ができる仕組みをつくるなど、簡素で効率的な市民にわかりやすい行政組織を検討していただきたい。
15	前回の会議概要を見るととてもいい意見が出ているが、地域へのPRが足りないのではないかと思います。予算の関係もあるので各戸配付は難しいと思うが広報・PRを工夫してほしい。				この会議でいうところの「一体化」とは、旧5町が旧鹿児島市の仕組み・やり方に、統一する、合わせる、なれるという側面があるのかなと思える。そうした場合、一体化が進めば進むほど、住民の意識・連帯感などが低下していく傾向になる気がしてならない。郡山地域のような農山村地域は、地域に対する愛着・誇り・こだわり、地域の連帯感も強い。また、市民の行政に対する信頼も厚い。これからの行政運営は、旧5町が旧鹿児島市に合わせるということだけでなく、このような旧5町のいい面もとり入れるという姿勢で、新たな仕組み・やり方を再構築するなど、将来に向けて本市を創造していく視点で本市の一体化を進めていくことが必要ではないか。

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
16	8集落で本名前地区連絡協議会を作っており年に数回会合をする。防犯・防災は1集落だけではできないので地域全体で取り組んでいるが、その際に地域まちづく会議のことも報告している。				市民のひろばなどの市の広報で旧5町区域のことや施設などいろいろと配慮してとりあげていただいております。非常にありがたい。旧5町の施設等が市の広報で情報発信されることで、多くの市民が旧5町に足を運び施設の利用増につながっている側面もあると思う。このようなことが相互の住民にとって親近感となり、一体化の大きな成果のひとつになっていると思うので是非、今後とも、これらの取組みをより充実していただきたい。
17	自分達の地域の住環境の整備は、ある程度は奉仕をもってやるのが大事である。手に負えないところを行政に頼るべきである。				合併後、他都市の例で合併の効果、成果等についてアンケートを実施してその結果を公表しているところがあるようだが、鹿児島市においても、5年後、10年後の節目に、合併の効果(行政サービス、住民意識の面など)について、あらためて検証して、市民に対してその情報をフィードバックしていただくようなことを考えていただきたい。
18	河川愛護作業が合併後、補助金が廃止されたことから一部の町内会を除き中止され、ボランティアで行われていたが、いつまでもそのような方々への好意だけに頼っていけないという気運が全地域へ広がり、全集落の取り組みに繋がった。				会議の経過、協議の進め方、意見等の整理方法及び自主研究グループの意見等の要約の確認。現在の意見・協議の到達度や問題点等について、本日の会議及び今後の自主研究グループでさらに議論を深めて、具体的な提言・提案をとりまとめていくことが確認された。
19	地域まちづくり会議での貴重な意見や提言を校区公民館運営審議会の中で報告している。				郡山地域において、救急車の出動にあたって、他の分遣隊から救急車が現場へ向かう場合に、通報場所がよく分からないのか、患者の所まで相当の時間を要したと聞いている。現場までスムーズに行けるような体制をとっていただきたい。

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
20	<p>ごみの収集を行っているが、ごみステーション管理を地区で上手く連携して管理していただければありがたいと思う。また、危険な場所にあるステーションもあるので地域で検討していただければと思う。</p>				<p>校区公民館については、主に学校の行事にしか使われず、あまり活用がなされていないようである。校区公民館は、生涯学習施設・社会教育施設として位置付けられているが、校区公民館運営審議会のメンバーは、校区内の各種団体の長で、各団体はそれぞれの活動拠点をもって独自に活動しており、現在の市の校区公民館制度は疑問や問題が多いと感じている。地域では、むしろ地域コミュニティ活動の拠点として、自由に使える公共施設が求められており、現在の校区公民館制度の意義と役割を検証し、見直しが必要ではないか。また、生涯学習、社会教育を目的としたこの施設をさらに有効に活用するためのひとつの方策として、類似の目的をもつ地域公民館と校区公民館の連携策を考えるべきではないか。</p>
21	<p>交通弱者への対策として、買い物や病院などへの足として、巡回バスの吉田地域から吉野方面への便を検討していただきたい。</p>				<p>ごみの減量化と資源化について、4月から北部清掃工場で新しい焼却炉が稼働しているが、この施設は、ダイオキシンがでないのではなく、規定値内で燃やす施設である。また、環境面からみて逆行しているようなごみの分別を行っているのが現状である。県内では、20種類の分別を行っているところもあり、本市でもこのような取り組みができないか。</p>
22	<p>旧市域と吉田地域の交流促進や自然体験のために、自然を満喫できるこの吉田北地域に市民農園を設置していただきたい。</p>				<p>コミュニティバス(元気バス)について、以前アンケート調査があったが、その結果について市民に公表していただきたい。</p>

第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
23	吉田町時代は吉田運動公園という名称であったが合併後は吉田運動場と変わっている。なぜ運動公園のままではいけなかったのか。運動公園という名前だったら、他地域から吉田に来た人が弁当を食べる場所としても気軽に行けると思う。また、年間を通して植え込みが手入れされていないようである。				合併して郡山支所に手話通訳が配置され、ろうあ者とのやり取りを見かけたとき、このような行政サービスは有り難いと感じた。郡山地域に住んでいる聴覚障害者と健常者との交流について行政の協力を得ながら、地域住民との交流の場を考えていただきたい。
24	会議概要のかごしままちづくり会議の主な意見に、「鹿児島市でも赤ちゃんポストについて検討する必要がある」とある。これは設置する方向で検討するということか。鹿児島は敬天愛人、人間尊重という気風がある。反対であると強く申し上げたい。				地域のイベントについては、特に町商工会が中心となって行っており、運営が難しくなっている。運営のあり方をはじめイベントの整理や統合も視野に入れた取り組みが必要である。
25	かごしままちづくり会議の状況を踏まえると、これまでの3年間で数多くの意見や提言を当局に伝え、実現できたことや検討されているものもある。このようなことなどから、任期の満了となる今年度で会議を終了することに異議はない。				本市では、夏に4地域の花火大会、錦江湾大花火大会、火の島まつりをそれぞれ開催しているが、それぞれ開催する必要性はあるのか。例えば、4地域の花火大会を冬の大きなイベントとして持ち回りで開催することはできないか。
26					組織のあり方については、本年度をもって、郡山地域まちづくり会議を終わることとし、これまでの集大成として、提言・提案をまとめることを確認した。

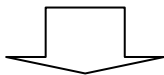
3 年間のとりまとめについて

1. とりまとめにあたっての基本的な考え方

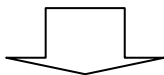
- ・ 本年度まで、3 年にわたり、合併後の本市のまちづくりについて、協議を重ねてきており、これまで、17 年度末、18 年度末に、それぞれの年度の協議経過をまとめた協議経過報告書を作成してきた経過があることから、これらの報告書をベースにとりまとめを行う。
- ・ 提言部分については、総括的な事項だけでなく、テーマごとに協議してきた経過があることから、テーマごとのまとめも行う。
- ・ 3 年間の成果の一つとして、会議の中で出された意見で、施策に反映されたものなど、解決されたものも掲載する。
- ・ とりまとめにあたっては、地域会議と連携するとともに、各地域の特徴・魅力を掲載し、各地域の PR につなげる。

2. スケジュール

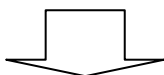
第 2 回会議(7 月) ..基本的な考え方及びスケジュールの検討



第 3 回会議(9 月) ..素案の検討



第 4 回会議(11 月) ..最終案の検討



11 月下旬頃 ..市長へ提出